

菊池持朝の墓

菊池氏の第 19 代当主である菊池持朝（1409-1446）は、かつての敵であった足利将軍家との関係を改善した有能な外交官として記憶されている。

持朝が当主となった 1431 年、武家主導の足利幕府が菊池氏が支持する南朝を服従させ、朝廷を二分し武家階級を分裂させた内紛に終止符を打ってから約 40 年が経過していた。菊池氏の政治的影響力と武力は大きく低下したが、幕府は敗戦後、菊池氏に肥後国（現在の熊本県）の守護職を維持させた。

九州では、菊池氏は武将を中心とする大内氏や大友氏と対立していた。大友家の後継者争いが起こると、主導権を奪われた側が菊池氏に味方した。足利幕府もまた大友家に不満を抱いており、菊池持朝は幕府と取引をした。幕府は菊池主導の大友家打倒を支持し、持朝に大友家が保有する筑後国（現在の福岡県南部）の守護職を与えるというものだった。

持朝の計画は成功し、1446 年に亡くなるまで肥後と筑後の両国の守護を務めた。しかしその半世紀後、大友氏は菊池氏を圧倒し、菊池氏の先祖伝来の地である肥後を占領し、復讐を果たすことになる。菊池持朝の墓は光善寺の境内にある。